

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程、後期課程5年一貫教育により修了時に学位が取得できる指導体制を確立する。	→研究職コース指導委員会のあり方を再確認し、指導状況の報告の増大。	A	B	A	A	A
2. 前期課程修了者の一定の資質を確保する。	→各専門分野において他研究科目も含めた履修プログラムのモデルの提示。	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度には学位取得プロセス図を設定し、2012年度には学位論文評価基準を明文化し、いずれも履修案内およびウェブサイト学生および社会に公表、周知している。前期課程・後期課程とも、研究演習を通じ指導教授によって学生の学習成果を判断し、適切な研究指導に努めている。特に研究職コースでは、定期的に指導委員会による指導を行い、進捗度の確認報告とともに研究指導の改善に努めている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2011年度、2012年度、2013年度と研究職コースよりの進学者を迎え入れ、指導委員会からも規定通りに指導状況報告書が提出されている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学位取得プロセスと学位論文評価基準の運用状況および学位取得状況を定期的・継続的に確認、評価し、制度の維持・改善に努めること。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 指導教員が学位取得に必要な科目を学生ごとに個別に履修指導を行い、教員の指導の下で履修が行われている。特に研究職コースでは、主分野外科目の履修が要求されており、指導委員会の指導の下で博士論文の執筆に必要なさまざまな専門知識の履修を行っている。このため、各分野ごとの明示的な履修モデルは提示していない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 現在の履修指導体制により、前期課程修了者の一定の資質は確保できていると思われる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまでの取り組みが一定の成果を上げているので、今後も着実に継続すること。また、各専門分野において標準的な履修モデルを作成・提示することの意義を検討すること。	☆
		その他	☆
備考			☆